

## **あなたは神を待て**

ヨブ記 35 章 1-16 節

### **はじめに**

月の第四週に私が説教をさせていただく時には、旧約聖書の「ヨブ記」からお話することにしてあります。今日は、35章から学びたいと思いますが、32-37章までは、ラム族のブズ人、バラクエルの子エリフの言葉が書かれています。

エリフは、ヨブに対して怒りを燃やしています。それは、「**ヨブが神よりも自分自身のほうを義とした**」(32:2)からです。つまりヨブが、神様よりも自分のほうが正しいと考えたからです。エリフは、ヨブのこの間違いを正そうとするのです。

### **1. 何の役に立つのか、どんな利益があるのか**

エリフは3節で、ヨブの考えについてこう言っています。「**何があなたの役に立つのでしょうか。私が罪から離れると、どんな利益があるのでしょうか**」。ヨブは、自分が正しいと思っています。ヨブは罪から離れて生きてきたのです。しかしヨブは今、大きな苦しみを経験しています。財産を失い、子どもたちを失い、健康も失い、妻からも見捨てられ、友人たちからも理解されない苦しみの中にあつたのです。そのような中でヨブは、どんなに正しく歩んでも、どんなに罪から離れても、何の意味もないと考えるようになってしまったのです。どんなに正しく歩んでも、どんなに罪から離れても、結局、神様は何もしてくださらない、そんな神様はおかしいと考えるようになったのです。自分は神様の前に正しく歩んできたけれども、神様は自分に対して誠実に接してくださらない、そう考えるようになったのです。

このような考えは結局、自分がどう歩もうが神様は何もなさらない、だから自分の好きなように自由に生きようという考えになってしまいます。

### **2. 天を仰ぎ見よ、はるかに高い雲をよく見よ**

そのようなヨブに対して、エリフは5-8節でこう言います。「**天を仰ぎ見よ。あなたより、はるかに高い雲をよく見よ。あなたが罪を犯したとしても、あなたは神に対して何ができるのか。あなたの背きが多くあるとしても、神に対して何をなし得るのか。あなたが正しかったとしても、神に何を与えられるのか。神は、あなたの手から何を受けられるのか。あなたの悪は、ただあなたのような人間に、あなたの正しさは、人の子に関わるだけだ**」。

エリフはヨブに、「天を仰ぎ見よ。あなたより、はるかに高い雲をよく見よ」と言います。ここでエリフは、神様とヨブとの間にある大きな隔たりに目を向けさせようとします。神様

は天におられ、私たち人間は地上にあります。そして神様は世界と人間を造られた創造者であり、私たち人間は神様に造られ命を与えられた被造物に過ぎません。その意味で、神様と私たち人間には大きな隔たりがあります。そして、私たち人間には神様に従う義務がありますが、神様が人間に報いる義務は何もありません。被造物は創造者に従う義務はありますが、創造者は被造物に報いる義務は何もないからです。私たち人間がたとえ正しい行いをしたとしても、「**私たちは取るに足りないしもべです。なすべきことをしただけです**」(ルカ 17:10)と言うだけなのです。

神様と私たち人間の関係は、創造者と被造物の関係です。ですから、神様には私たち人間の行いに報いる義務は何もないのです。神様が私たち人間の行いに報いるのは、当然の義務ではなく、恵み以外の何ものでもないのです。それなのにヨブは、神様が自分の正しさに報いてくださらないと言って、不平不満を口にし、神様はおかしい、神様は間違っていると考えていることを、エリフは問題にしているのです。

神様と私たち人間の関係は、決して対等ではありません。私たち人間には神様に従う義務はありますが、神様が私たち人間の行いに報いる義務はありません。ですから神様は、私たち人間の行いに、一喜一憂される方ではありません。神様は、私たちの行いに振り回される方ではありません。それなのに私たち人間は、自分の正しさに神様は当然報いるべきだと考えて、神様を非難するのです。また逆に、世の中にある悪を神様はなぜ裁かないのかと非難するのです。神様は創造者ですから、私たち人間に何の関心も持たなくても構わないのです。それなのに私たち人間は、神様と対等であるかのように考えて、私たちが義務を果たしたのだから、神様も義務を果たすべきだと神様を非難するのです。

私たちは決して思い上がってはいけません。天を見上げて、自分が何者であるかをわきまえなければなりません。神様が、私たちに関わってくださること、神様が私たちの行いに報いてくださること、それは決して当然のことではなく、神様のへりくだりと恵み以外の何ものでもないのです。

### **3. 神は偽りの叫びを聞き入れず、心に留めない**

9-13 節には、神様の沈黙の理由、神様が祈りを聞かれない理由について書かれています。「**人々は、激しい抑圧のために泣き叫び、偉大な者の腕のために、助けを叫び求める。しかし、だれも問わない。『私の造り主である神はどこにおられるのか。夜、ほめ歌を下さる方は。地の獣に教えるより、私たちに多くを教え、空の鳥より、私たちを賢くする方は』と。そこでは、彼らが泣き叫んでも神は答えない。悪人がおごり高ぶっているからだ。神は決して偽りの叫びを聞き入れず、全能者はこれに心を留めない。**」

神様は、神様を認めない者の祈り、おごり高ぶっている悪人の祈りを聞き入れません。神様は、それらの祈りを心に留めず、答えることもしません。では、どんな祈りが聞かれるのでしょうか。それは、神様を造り主、創造者としても認め、人間を動物よりも賢い神のかたちで創造された方、暗闇の苦難の時にこそ、私たちに賛美を与えてくださる方と信じて祈る

祈りです。神様は、神様を認めない祈り、おごり高ぶった悪人の祈りを、動物の祈りのように見なします。私たち人間のあるべき祈り、聞かれる祈りは、神様を認める祈りなのです。

#### 4. **訴えは神の前にある。あなたは神を待て**

しかしエリフは、14-16節でヨブに対しては、このように言います。「『**神は見られない**』とあなたが言うときには、**なおさらだ。しかし訴えは神の前にある。あなたは神を待て。しかし今、神は怒って罰しないだろうか。ひどい罪を知らずにいるだろうか。ヨブは空しい口を開き、知識もなしに、自分の言い分を並べ立てている**」。

神様を認めない祈り、おごり高ぶった悪人の祈りは聞かれないとエリフは言います。しかしヨブには、「訴えは神の前にある。あなたは神を待て」と言います。エリフは、ヨブの祈りは神様の前に届いていると言います。今、祈りが答えられないのは神様の時があるからだ、神様は時至って必ずあなたの祈りに答えてくださる、だから今は神様の時を待ちなさいと言うのです。しかもこの待つ時に、「神様は見られない」とか「神様は間違っている」とか「神様はおかしい」とか、空しい口を開いて、知識もない自分の言い分を並べ立てるのは止めなさい、ただ黙って、ひたすら神様を待ちなさい、祈りは神様の前に届いていることを信じて、ひたすら待ちなさいと言うのです。

エリフはヨブを、神様を認めない人たち、おごり高ぶった悪人たちのようには見ていません。ヨブは神様から、「**彼のように、誠実で直ぐな心を持ち、神を恐れて悪から遠ざかっている者は、地上には一人もない**」(ヨブ記 1:8)と言われる人でした。ヨブは罪のない、完璧な人間ではありませんでしたが、自分の罪を素直に認め、告白し、贖い主に頼り、いけにえを献げて、罪の贖いをするような人でした。神様の前に誠実に歩んできた人でした。だからこそ、ヨブの祈りは神様の前に届いていると言ったのではないのでしょうか。

ヨブは神様の前に誠実に歩んできた人でした。しかし突然、財産を失い、子どもたちを失い、健康を失い、妻からも見捨てられ、友人たちからも理解されない苦しみを経験させられたのです。そのような中でヨブは、何度も神様に訴えました。しかし神様は沈黙されたまま、一向に祈りに答えてくださらないのです。そのような中で、神様よりも自分のほうが正しいと考えるようになってしまったのです。神様の前に誠実に歩んできたのに、神様が何も答えてくださらない、御手を動かしてくださらない、それはおかしい、神様に誠実さが足りないと考えるようになってしまったのです。神様の沈黙があまりにも長く続くため、神様を非難するようになってしまったのです。自分が正しく歩んでも何の意味もない、神様なんていないんじゃないか、そうまで考えるようになってしまったのかもしれない。

そのようなヨブに対してエリフは、「訴えは神の前にある。あなたは神を待て」と言うのです。あなたの祈りは、確かに神様の前に届いている。神様は必ず答えてくださるから、沈黙を破る時が来るから、忍耐して神様の時を待ちなさいと言うのです。確かに神様は、ヨブ記 38章から長い沈黙を破って口を開き、ヨブに語りかけるのです。

## おわりに

今日の聖書箇所から私たちが教えられることは、神様の前にへりくだることの大切さ、そして神様の前に忍耐することの大切さです。私たちは、苦しみの中にいる時、自分が何者であるかを忘れてしまいます。そして、自分を中心に神様を見て、神様と自分がまるで対等であるかのように、神様がなぜ祈りに答えてくださらないのか、神様がなぜ自分の行いにむくいてくださらないのかと不平不満を募らせます。まるで神様が、私たちの祈りに答えることが当然であるかのように、私たちの行いに報いるのが当然であるかのように考えてしまいます。私たちは、自分が何者であるかをわきまえなければなりません。神様がもし自分の祈りに答えてくださるとすれば、また自分の行いに報いてくださるとすれば、それは神様のへりくだりと恵みによる以外の何ものでもないことを覚えなければなりません。

神様と私たちの隔たりは、あまりにも大きいものです。神様は創造者であられ、天におられます。しかし私たちは被造物であり、地上にいます。また神様は聖なる方であり、私たちは罪深い者です。私たちの祈りは聞かれなくて当然、私たちの行いは報われなくて当然の存在です。

しかし神様は、ただへりくだりと恵みによって、私たちを永遠の昔から選び、愛し、私たちに聖霊を与え、悔い改めと信仰を呼び起こし、神様の子どもとして受け入れてくださいました。そして私たちの祈りを聞き、私たちの行いに報いてくださる恵みを与えてくださいました。

私たちもヨブと同じような状況に陥ることがあります。イエス様を信じて、クリスチャンとして歩んでいるのに、なぜか苦しみを経験する時があります。そして私たちもヨブと同じように、自分を見失い、神様を見失うことがあります。なぜ神様は、こんな苦しみを私に与えるのか、なぜ神様はこんなにも長く苦しみにあわせるのか、なぜ神様は私の祈りに答えてくださらないのか、なぜ状況が一向によくならないのか、神様は私を愛していないのか、神様は私に怒っておられるのか、これは神様の裁きなのか、それとも神様はそもそもいないのか、など様々な思いが私たちの心に湧いてきます。

しかしそんな時にこそ、今日の聖書箇所のエリフの言葉、「しかし訴えは神の前にある。あなたは神を待て」という言葉を思い出しましょう。私たちの祈りは、確実に神様の前に届いています。神様は、時至って必ず祈りに答えてくださいます。私たちは、信仰をもって神様の時を待たなければなりません。忍耐しなければなりません。その待つ時間、忍耐する時間こそ、私たちを成長させるものなのです。

最後に、ヤコブ 1：2-4 を読んで終わらしましょう。「**私の兄弟たち。様々な試練にあうときはいつでも、この上もない喜びと思いなさい。あなたがたが知っているとおりの、信仰が試されると忍耐が生まれます。その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは何一つ欠けたところのない、成熟した、完全な者となります。**」

神様は確かに、イエス様を信じる私たちを愛しておられます。私たちは、神様の前にへりくだって、忍耐をもって神様の時を待つことが求められているのです。

天におられる私たちの父なる神様。

あなたは天地の創造者であられます。私たちは、あなたに造られた被造物に過ぎません。私たちとあなたとの隔たりは、あまりにも大きいものです。それにも関わらず、私たちは、あなたは私たちの祈りに当然答える方、私たちの行いに当然報いる方かのように考えて、不平不満を漏らします。あなたが私たちの祈りを聞き、私たちの行いに報いてくださるのは、あなたのへりくだりと恵みによる以外の何ものでもありません。

私たちは、ただあなたの恵みにより頼みつつ、あなたの前にへりくだり、あなたを信じ、あなたを待つことができますように。あなたを待つ信仰と忍耐を、私たちのうちに与え、その信仰と忍耐によって、私たちを成長させてください。

この祈りを私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。